

平成 28 年 度

岡 山 市 病 院 事 業 会 計  
決 算 審 査 意 見 書

岡 山 市 監 査 委 員

岡 監 第 134 号  
平成29年7月28日

岡山市長 大森雅夫 様

岡山市監査委員	岸	堅	士
同	土居	幸	徳
同	小林	寿	雄
同	小川	信	幸

平成28年度岡山市病院事業会計決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された平成28年度岡山市病院事業会計決算及び各証書類その他関係書類を審査した結果、別紙のとおり意見を提出します。

## 目 次

第1	審 査 の 対 象	.....	1
第2	審 査 の 期 間	.....	1
第3	審 査 の 方 法	.....	1
第4	審 査 の 結 果	.....	1
1	業 務 の 概 要	.....	2
2	予 算 の 執 行 状 況	.....	2
3	経 営 成 績	.....	4
4	財 政 状 態	.....	6
5	む す び	.....	10
	資 料	.....	11

- (注) 1 文中の金額は、原則として万円単位で表示し、端数は切り捨てた。このため計数が一致しない場合がある。
- 2 文中の比率及び各表中、グラフ中の数値は、原則として表示の1桁下位で四捨五入した。このため計数が一致しない場合がある。
- 3 文中に用いるポイントとは、パーセンテージ間又は指数間の単純差引数値である。
- 4 各表中の符号の用法は、次のとおりである。  
「0.0」・・・該当数値はあるが、単位未満のもの  
「－」・・・算出不能、該当数値のないもの

**第 1 審査の対象**

平成 28 年度岡山市病院事業会計決算

**第 2 審査の期間**

平成 29 年 6 月 5 日から

平成 29 年 7 月 28 日まで

**第 3 審査の方法**

審査に当たっては、市長から審査に付された平成 28 年度岡山市病院事業会計決算並びに証書類、事業報告書及び政令で定めるその他の書類が関係法令に準拠して作成されているか、事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているかどうかについて審査するとともに、関係者からの説明を聴取し、会計帳票等証書類との照合及び経営内容の動向を把握するため計数の分析を行い、年次比較等の検討を加えた。

**第 4 審査の結果**

決算並びに事業報告書及び政令で定めるその他の書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、会計帳票等証書類と照合審査の結果、計数は正確であり、かつ、本年度の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認めた。

なお、決算概要及び審査意見は、次のとおりである。

## 1 業務の概要

岡山市病院事業会計は、国立病院機構岡山市立金川病院の建物等の減価償却の費用計上、建物の維持管理に伴う経費負担や経年劣化に伴う修繕の実施、企業債の元利償還及び決算処理を行う目的で設置されたものである。

国立病院機構岡山市立金川病院は、平成 24 年度から指定管理者制度を導入し、独立行政法人国立病院機構が管理運営を行っている。

同病院は、内科、外科、眼科、皮膚科、リハビリテーション科の 5 科、病床数 30 床の体制で、救急告示病院にも指定されている。

### (1) 業務実績

国立病院機構岡山市立金川病院は、利用料金制による指定管理者制度により独立行政法人国立病院機構が運営を行っているため、岡山市病院事業としての業務実績はない。

### (2) 建設改良事業

本年度の建設改良事業はない。

## 2 予算の執行状況

### (1) 収益的収入及び支出

収益的収入及び支出の予算執行状況は、次表のとおりである。(資料第 1 参照)

#### 収益的収入及び支出の予算執行状況

区 分	予 算 額 A	決 算 額 B	執 行 率 B/A	予算額に比し 増, 減 (△) 又は 不用額
	円	円	%	円
収 益 的 収 入	18,807,000	16,599,414	88.3	△ 2,207,586
収 益 的 支 出	52,120,000	49,921,419	95.8	2,198,581

(注) 決算額のうち、収益的収入における仮受消費税及び地方消費税は 0 円、収益的支出における仮払消費税及び地方消費税は 3,200 円である。

収益的収入決算額 1,659 万円は、予算額 1,880 万円に対し 88.3%の執行率、収益的支出決算額 4,992 万円は、予算額 5,212 万円に対し 95.8%の執行率となっている。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収入及び支出の予算執行状況は、次表のとおりである。(資料第2参照)

**資本的収入及び支出の予算執行状況**

区 分	予 算 額 A	決 算 額 B	執 行 率 B/A	予算額に比し 増, 減 (△) 又は不用額
	円	円	%	円
資本的収入	8,467,000	5,466,460	64.6	△ 3,000,540
資本的支出	8,467,000	5,466,460	64.6	3,000,540

(注) 決算額のうち、資本的収入における仮受消費税及び地方消費税並びに資本的支出における仮払消費税及び地方消費税は0円である。

資本的収入決算額 546 万円は、予算額 846 万円に対し 64.6%の執行率、また、資本的支出決算額 546 万円は、予算額 846 万円に対し 64.6%の執行率となっている。

(3) 建設改良費の翌年度繰越額

建設改良費の翌年度繰越額は、該当がない。

### 3 経営成績

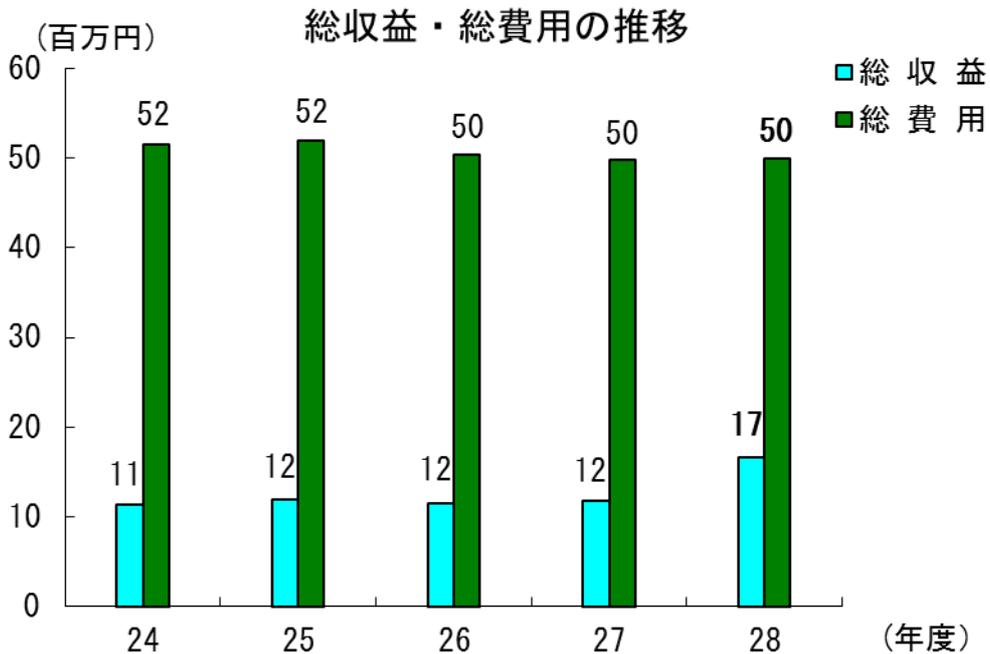
(1) 総合成績

総合成績は、次表のとおりである。(資料第3参照)

#### 総合成績

年度	総収益			総費用			損益(△損失) A - B	総収支比率 A / B
	金額 A	前年度比	指数	金額 B	前年度比	指数		
	円	%		円	%		円	%
24	11,396,785	—	100	51,581,913	—	100	△ 40,185,128	22.1
25	11,930,292	104.7	104.7	51,941,220	100.7	100.7	△ 40,010,928	23.0
26	11,574,217	97.0	101.6	50,405,865	97.0	97.7	△ 38,831,648	23.0
27	11,761,083	101.6	103.2	49,852,541	98.9	96.6	△ 38,091,458	23.6
<b>28</b>	<b>16,599,414</b>	<b>141.1</b>	<b>145.6</b>	<b>49,921,419</b>	<b>100.1</b>	<b>96.8</b>	<b>△ 33,322,005</b>	<b>33.3</b>

(注) 指数は平成24年度を100として算出。



総収益は1,659万円で、前年度に比べ483万円(41.1%)の増収となり、総費用は4,992万円で、前年度に比べ6万円(0.1%)の増費となっている。その結果、総収支比率は33.3%を示し、3,332万円の純損失を生じ、当年度未処理欠損金(累積欠損金)は1億9,577万円となっている。(資料第4参照)

(2) 経常収支

経常収支は、次表のとおりである。(資料第3参照)

経 常 収 支

科 目	28 年 度		27 年 度		増, 減 (△) C (A - B)	増減率 C / B
	金 額 A	構 成 比	金 額 B	構 成 比		
	円	%	円	%	円	%
医 業 収 益	66,308	0.4	65,895	0.6	413	0.6
その他医業収益	66,308	0.4	65,895	0.6	413	0.6
医 業 外 収 益	16,533,106	99.6	11,695,188	99.4	4,837,918	41.4
受取利息及び配当金	18	0.0	68	0.0	△ 50	△ 73.5
負 担 金 交 付 金	11,066,628	66.7	11,100,598	94.4	△ 33,970	△ 0.3
長 期 前 受 金 戻 入	5,466,460	32.9	594,522	5.1	4,871,938	819.5
<b>経 常 収 益 計</b>	<b>16,599,414</b>	<b>100</b>	<b>11,761,083</b>	<b>100</b>	<b>4,838,331</b>	<b>41.1</b>
医 業 費 用	35,038,182	70.2	34,935,241	70.1	102,941	0.3
経 費	63,108	0.1	62,652	0.1	456	0.7
減 価 償 却 費	34,872,589	69.9	34,872,589	70.0	0	0
資 産 減 耗 費	102,485	0.2	0	0	102,485	—
医 業 外 費 用	14,883,237	29.8	14,917,300	29.9	△ 34,063	△ 0.2
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	11,066,646	22.2	11,100,666	22.3	△ 34,020	△ 0.3
長 期 前 払 消 費 税 償 却	3,813,391	7.6	3,813,391	7.6	0	0
雑 支 出	3,200	0.0	3,243	0.0	△ 43	△ 1.3
<b>経 常 費 用 計</b>	<b>49,921,419</b>	<b>100</b>	<b>49,852,541</b>	<b>100</b>	<b>68,878</b>	<b>0.1</b>
<b>経 常 損 益</b>	<b>△ 33,322,005</b>		<b>△ 38,091,458</b>		<b>4,769,453</b>	<b>△ 12.5</b>

経常収益は1,659万円で、前年度に比べ483万円(41.1%)の増収、経常費用は4,992万円で、前年度に比べ6万円(0.1%)の増費で、経常損益は3,332万円の損失となっている。

経常収益の増収は、主に企業債元金償還に対する一般会計繰入金である長期前受金戻入が増加したためである。

経常費用の増費は、主に資産減耗費が皆増したためである。

(3) 特別損益

特別損益は、該当がない。

## 4 財政状態

### (1) 資産、負債及び資本

要約比較貸借対照表は、次表のとおりである。(資料第4参照)

要 約 比 較 貸 借 対 照 表

科 目	28年度末		27年度末		増、減(△) C(A-B)	増減率 C/B
	金 額 A	構成比	金 額 B	構成比		
	円	%	円	%	円	%
固定資産	851,793,710	100.0	890,582,175	100.0	△ 38,788,465	△ 4.4
流動資産	300,000	0.0	300,000	0.0	0	0
<b>資産合計</b>	<b>852,093,710</b>	<b>100</b>	<b>890,882,175</b>	<b>100</b>	<b>△ 38,788,465</b>	<b>△ 4.4</b>
固定負債	606,907,291	71.2	627,439,018	70.4	△ 20,531,727	△ 3.3
流動負債	20,831,727	2.4	5,766,460	0.6	15,065,267	261.3
繰延収益	220,250	0.0	220,250	0.0	0	0
<b>負債合計</b>	<b>627,959,268</b>	<b>73.7</b>	<b>633,425,728</b>	<b>71.1</b>	<b>△ 5,466,460</b>	<b>△ 0.9</b>
資本金	419,892,157	49.3	419,892,157	47.1	0	0
剰余金	△ 195,757,715	△ 23.0	△ 162,435,710	△ 18.2	△ 33,322,005	20.5
<b>資本合計</b>	<b>224,134,442</b>	<b>26.3</b>	<b>257,456,447</b>	<b>28.9</b>	<b>△ 33,322,005</b>	<b>△ 12.9</b>
<b>負債・資本合計</b>	<b>852,093,710</b>	<b>100</b>	<b>890,882,175</b>	<b>100</b>	<b>△ 38,788,465</b>	<b>△ 4.4</b>

#### ア 資産

資産の総額は8億5,209万円で、前年度末に比べ3,878万円(4.4%)減少している。これは、固定資産の減少によるもので、主に、減価償却により建物が2,779万円(4.5%)、構築物が708万円(14.0%)、除却により器械備品が10万円(7.3%)減少したためである。

流動資産は30万円で、前年度末と同額である。

#### イ 負債

負債の総額は6億2,795万円で、前年度末に比べ546万円(0.9%)減少している。これは、流動負債は1,506万円(261.3%)増加したが、固定負債が2,053万円(3.3%)減少したことによるものである。

繰延収益は22万円で、前年度末と同額である。

#### ウ 資本

資本の総額は2億2,413万円で、前年度末に比べ3,332万円(12.9%)減少している。これは、剰余金の減少によるものである。

資本金は4億1,989万円で、前年度末と同額である。

エ 財務比率

財務比率は、次表のとおりである。(資料第5参照)

財 務 比 率

分 析 項 目	28 年 度	27 年 度	算 式
固定資産対長期資本比率 (望ましい比率 100%以下)	<b>% 102.5</b>	% 100.6	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$
流 動 比 率 (望ましい比率 200%以上)	<b>1.4</b>	5.2	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
当 座 比 率 (望ましい比率 100%以上)	<b>1.4</b>	5.2	$\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$

固定資産対長期資本比率は、前年度末に比べ1.9ポイント低下し102.5%となっている。  
流動比率は、前年度末に比べ3.8ポイント低下し、1.4%となっている。  
当座比率は、前年度末と比べ3.8ポイント低下し、1.4%となっている。

(2) 企業債

企業債残高の状況は、次表のとおりである。

企 業 債 残 高

年 度	前年度末残高 A	増 加 高 (借入額)	減 少 高 (償還額)	増, 減 (△) 差引残高 B	増減率 B / A	年度末残高
	円	円	円	円	%	円
24	636,605,870	0	2,261,410	△ 2,261,410	△ 0.4	634,344,460
25	634,344,460	0	422,216	△ 422,216	△ 0.1	633,922,244
26	633,922,244	0	422,244	△ 422,244	△ 0.1	633,500,000
27	633,500,000	0	594,522	△ 594,522	△ 0.1	632,905,478
<b>28</b>	<b>632,905,478</b>	<b>0</b>	<b>5,466,460</b>	<b>△ 5,466,460</b>	<b>△ 0.9</b>	<b>627,439,018</b>

本年度末の企業債残高は6億2,743万円で、前年度に比べ546万円(0.9%)減少している。また、利子負担率は1.8%となり、前年度と同率である。(資料第5参照)

(3) 一般会計からの繰入金

一般会計からの繰入金は、次表のとおりである。

一 般 会 計 か ら の 繰 入 状 況

区 分		28年度 A	27年度 B	増, 減 (△) C (A - B)	増減率 C / B
病院事業収益	金川病院管理負担金	円 66,308	円 65,895	円 413	% 0.6
	企業債利息償還額負担金	11,066,628	11,100,598	△ 33,970	△ 0.3
<b>収益的収入計</b>		<b>11,132,936</b>	11,166,493	△ 33,557	△ 0.3
病院事業資本的収入	企業債元金償還額負担金	5,466,460	594,522	4,871,938	819.5
<b>資本的収入計</b>		<b>5,466,460</b>	594,522	4,871,938	819.5
<b>合 計</b>		<b>16,599,396</b>	11,761,015	4,838,381	41.1

本年度における一般会計からの繰入金については、収益的収入は1,113万円で、前年度に比べ3万円(0.3%)の減少、資本的収入は546万円で、前年度に比べ487万円(819.5%)の増加となっており、合計は1,659万円で、前年度に比べ483万円(41.1%)の増加となっている。

(4) キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フロー計算書は、一事業年度における資金の増加又は減少の状況を、業務活動、投資活動及び財務活動に区分して表したものである。

本年度のキャッシュ・フロー計算書は、次表のとおりである。

キャッシュ・フロー計算書

区 分		28 年度	27 年度	増, 減 (△)
業務活動によるキャッシュ・フロー		円	円	円
	当年度純利益	△ 33,322,005	△ 38,091,458	4,769,453
	減価償却費	34,872,589	34,872,589	0
	資産減耗費	102,485	0	102,485
	長期前払消費税償却	3,813,391	3,813,391	0
	長期前受金戻入額	△ 5,466,460	△ 594,522	△ 4,871,938
	受取利息及び配当金	△ 18	△ 68	50
	支払利息及び企業債取扱諸費	11,066,646	11,100,666	△ 34,020
	<b>小 計</b>	<b>11,066,628</b>	11,100,598	△ 33,970
	受取利息及び配当金	18	68	△ 50
支払利息及び企業債取扱諸費	△ 11,066,646	△ 11,100,666	34,020	
<b>計 (A)</b>	<b>0</b>	0	0	
シによる投資活動によるキャッシュ・フロー	一般会計からの繰入金による収入	5,466,460	594,522	4,871,938
	<b>計 (B)</b>	<b>5,466,460</b>	594,522	4,871,938
シによる財務活動によるキャッシュ・フロー	建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 5,466,460	△ 594,522	△ 4,871,938
	<b>計 (C)</b>	<b>△ 5,466,460</b>	△ 594,522	△ 4,871,938
<b>資金増減額 (A + B + C)</b>		<b>0</b>	0	0
<b>資金期首残高</b>		<b>300,000</b>	300,000	0
<b>資金期末残高</b>		<b>300,000</b>	300,000	0

業務活動によるキャッシュ・フローにおいては、資金の増減はない。投資活動によるキャッシュ・フローにおいては、一般会計繰入金の収入により 546 万円の資金増加となっている。一方、財務活動におけるキャッシュ・フローにおいて、企業債の償還により 546 万円の資金減少となっている。

この結果、資金の増減はなく、本年度の資金期末残高は期首残高と同額の 30 万円となっている。

## 5 む す び

本事業については、国立病院機構岡山市立金川病院の建物の維持管理に伴う経費や、企業債の元利償還金等の支出及びそれらに対応した負担金収入などの経理並びに建物等の減価償却費の費用計上などの会計処理を行っている。

本年度の経営成績についてみると、総収益 1,659 万円、総費用 4,992 万円で、3,332 万円の純損失を生じ、累積欠損金は前年度末の 1 億 6,245 万円から 1 億 9,577 万円へと増加しているが、主な要因は、減価償却費によるものである。

独立行政法人国立病院機構岡山市立金川病院は、内科、外科、眼科、皮膚科、リハビリテーション科の 5 科、病床数 30 床の体制で、救急告示病院にも指定されており、地域医療を担っている。

独立行政法人国立病院機構岡山市立金川病院の運営にとって、岡山市病院事業会計の健全な管理運営は不可欠なものであり、今後とも、指定管理者である国立病院機構との連携を密にし、引き続き地域医療に貢献されるよう要望する。